



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第222号 2020年9月号

SINCE 2002.4.1.

発行日令和2年8月31日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

よこすか産業まつり

新型コロナウイルス感染対策として、横須賀市では人数を制限することができず感染リスクへの対応が整わないような大規模なイベントを年内は行わない方針ですので、「よこすか産業まつり」は中止が決定しました。

弊社では、サイコロキャラメル空き箱を使ったペーパークラフト教室「みんなde街づくり」で出展し、サンタクロースの家を作るというテーマで「SANTAS' HOUSE」シリーズを展開していましたので、非常に残念です。昨年に引き続き、2年連続の中止となりました。「え～っ、作り方を忘れちゃうよ」といった声にお応えするべく、ご自宅で簡単に作成できるようなハウスキットを企画中です。今しばらくお待ちください。



PCR検査

新型コロナウイルスが一向に収束の気配を見せませんが、PCR検査が自費で受けられる医療機関は徐々に増えてきました。症状が出ていない人が、保健所を通さずに、自由診療で医療機関と直接に連絡を取って予約をして、唾液を用いた検査などで、陰性が陽性を判定してもらうことができます。



尚、検査料金や診療時間など、それぞれの医療機関で異なりますので、必ず事前に問い合わせして予約を取ってからの来院を呼び掛けています。



(参考資料「神奈川新聞」「横須賀市のホームページ」)

皆様のご愛顧、ご愛読に感謝申し上げます
創業 1960.1.20. Next100
創刊 2002.4.1.

平成21年の部屋の模様替え以来、リフォーム工事、住宅設備のメンテナンスを担当させていただいているお住まいをご紹介します。

「すまい造りメール」第221号でご紹介させていただいた、「マドモアチェンジ」を使って、現在使っている手動のシャッターのシャフトを交換し、100Vの電源と接続して電動シャッターにする工事です。

「前略 おせわ様。その後いかがお過ごしですか。」

外壁工事も屋内工事も不要なので、ほぼ半日で完了しました。シャッターの下降時に障害物を感知すると自動的に停止し、反転上昇するセンサー機能が装備されています。「リモコンで操作するので、朝晩の開け閉めが楽になりました」という感想をいただきました。

「劇的な」リフォームではないかも知れませんが、ビフォー、アフター、さらにそのアフターまでお手伝いさせていただきます。



よこすか文学館

<57>

横須賀が登場する文芸や横須賀にゆかりのある文学者を紹介します。

大島昌弘

『罪なくして斬られる-小栗上野介』(学陽書房)

本誌の「横須賀製鉄所物語」(井上吉隆氏)でもしばしば言及されている横須賀製鉄所の生みの親

おぐり こうすけのすけ ただまさ

「小栗上野介(忠順)」(1827-1868)の後半生を描いた時代小説。小栗は、譜代の旗本としての忠義心の持ち主であり、相手が上司であっても自分の意見を断乎として主張する

張する狷介孤高、直言の士です。それゆえ、幕府の存続のため改革を試み、また日本の未来のために横須賀製鉄所創建に尽力しますが、衝突と免職、辞職を繰り返します。結局、幕府は倒れ、小栗は隠棲先の上州権田村にて薩摩軍によって斬首されます。終章には、小栗の死から38年後、東郷平八郎が自邸に小栗の遺族を招く場面があります。



洗足学園中学高校教諭
中島正二

横須賀製鉄所物語（勝麟太郎の意欲と挫折①）〈68〉

52年11ヵ月の間、都市政策を中心に横須賀市の発展に寄与され、最後の8年間は2期に亘り、横須賀市助役として活躍された井上吉隆氏に横須賀製鉄所についてお話を伺いました。

木村摂津守と勝麟太郎がアメリカへの派遣について正式に伝えられたのは、安政5年11月28日江戸城でした。その時木村は30歳、勝は38歳でした。勝はかねてから日米修好通商条約批准書交換のための正使一行の船とは別に、軍艦を派遣することを耳に入れていて、幕府の高官に再三にわたり渡米についての希望を書状で伝えていましたので、江戸城での派遣の伝達は夢のような気持ちで受けたことと思います。

木村は、木村図書から木村摂津守を名乗り、千石の禄高から千石の加増で二千石となりました。一方、勝は百俵扶持から木村と同じ倍増の二百俵十五人扶持となりました。そして、軍艦奉行には木村摂津守が任命されました。勝麟太郎にしてみれば、操船技術についても未知数で、年齢的にも年下の者が軍艦奉行に昇進して、操船の指揮と責任を負うことになり、さぞかし、大きな不満を持ったことでしょう。勝麟太郎としては、自らの実力を幕府は認め、航海全般の責任者に指名されると自負していたので、それが見事に覆された結果となりました。

勝麟太郎が自らの力量を高く評価していたのは何であったのでしょうか。それは長崎海軍伝習所で受けた教育にあったのではないのでしょうか。

長崎海軍伝習所は、幕府海軍の養成を目的として1855年（安政2年）に設立されました。講師としてオランダから派遣を受け、軍艦の運航のみならず造船、語学、医学など幅広い教育が行われました。特に軍艦の運航訓練にはオランダから提供された軍艦観光丸が練習艦として使用されました。

長崎海軍伝習所の初代総裁には永井尚志が就任し、1856年（安政3年）には二代目総裁として木村図書（後の摂津守）が就任します。伝習所の教育は1年間で終了するコースが設定されていて、1857年（安政4年）の三年間教育が行われました。しかし、江戸から遠隔の地にあることから翌年には江戸築地へと移転することになりました。

長崎海軍伝習所の研修生は、浦賀奉行所からも派遣されていました。中島三郎助、浜口興右衛門、佐々倉桐太郎、岡田弁蔵、山本金次郎等が派遣され、日米修好通商条約批准書交換使節団の随伴艦咸臨丸に乗船しています。しかし、なぜか中島三郎助だけが外されているのです。尚、この伝習所の研修生の中には肥田浜五郎、小野友五郎、赤松大三郎、小杉雅之進等も咸臨丸に乗船しています。



浦賀奉行所跡

（元横須賀市助役 井上吉隆）

「光あふるる平和郷」

「すまい造りメール」第221号でお知らせしましたが、追浜コミュニティセンター北館3階で「追浜駅周辺グランドデザイン地域懇談会」が開催されました。現在、追浜駅周辺で計画されているプロジェクトは、①国道357号線の延伸事業 ②国道16号線の拡幅事業 ③追浜駅前の再開発事業 ④鷹取川の有効活用事業 ⑤夏島貝塚通り（追浜銀座通り）の商店街活性化事業 ⑥DOCK OF BAYSTARS YOKOSUKAの周辺整備事業 ⑦横須賀スタジアムの照明設備等改修事業 ⑧追浜駅前の交通結節点機能強化事業の8つです。これらの一つ一つについて、参加された地域の方々から7つのグループに分かれ、追浜の街の現状を踏まえた将来像について自由に話し合われました。その結果、解決したい街の問題点や要望として、**A) 商店街の活性化の問題 B) 歴史的遺産や鷹取山、鷹取川など自然を活用した街づくり C) 追浜駅前の交通渋滞の解消と自転車の通行、駐輪の問題**が挙がりました。横浜市との市境にある追浜は「北の玄関口」と位置づけ整備が進められようです。横須賀市経営企画部まちづくり政策課では、9月未だにこれらの意見を集約してホームページで「追浜の将来像」を発表するようです。



お問い合わせ

住まいに関する皆様の疑問や質問、お知らせしたいことや情報などがございましたら、ご連絡ください。郵送の停止を希望される場合や、バックナンバーを希望される場合など、ご遠慮なく、お申し出ください。

尚、ホームページより「すまい造りメール」創刊号からのバックナンバーをはじめ、追浜周辺の地図「Oppamap 2020」A-9歩ZONE版（永久保存版）をダウンロードすることができますので、アクセスしていただき、ご活用ください。

皆様の「快適な暮らし」のヒントになることができましたら幸いです。

〒237-0068 神奈川県横須賀市追浜本町1-25 有限会社佐野工務店
TEL 046(865)4010 FAX 046(865)6139

すまい造り

検索